



はじめに

人の体は200グラムに近い食塩が含まれ、常にその量を維持しなければなりません。塩をはじめ海産物が運ばれた経路をたどると、塩は海水から作られ海辺から船で川を遡り、中継港から人や牛馬などにより内陸部に運ばれました。その起源は誰にもわかりません。街道の自然や土地の文化遺産に導かれながら、塩が運ばれた歴史の道をたどり、地域の人々や仲間同士のふれあいを大切にしたいスローな歩く旅です。コースには以下の魅力があります。

中部横断の充実プラン

列島で一番幅の広い中部地区に刻まれた「塩の道」の南塩ルートと北塩ルートを分割踏破。太平洋から日本海にほぼ一直線で横断する充実完歩計画です。

フォッサマグナの断層地帯を歩く

糸魚川から相良付近はフォッサマグナ（東北日本と西南日本を分けた地溝帯）西端の大断層。太古の昔は海峡でつながれ、2500万年前以降に火山活動の地殻変動で隆起したといわれます。

街道・古道の魅力

秋葉街道・伊那街道・五千石街道・千国（ちくに）街道の各道は、常夜灯・道祖神・石仏群・巨木や古社寺など、自然・文化遺産が多いコースです。

日本を代表する山岳風景が魅力

日本を代表する山岳地帯で、北・中央・南アルプスの国内屈指の山岳景観と自然環境の魅力が満喫できます。

海産物と共に「人の心と文化」も輸送した道

上杉謙信から武田信玄に送られた義塩は「争うべきは弓矢にあり、米・塩にあらず」・・・。中馬街道（伊那街道）では、おみやげで三河の土雛が馬の背に揺られて運ばれ、大変喜ばれました。

郷愁を誘う「日本の原風景」に触れる

唱歌「ふるさと」に歌われた棚田・里山・小川など「日本の原風景」や心象風景（こころのふるさと）に触れる旅になります。

「日本の四季」の移り変わりを体験

1年かけた完歩計画です。日本の四季の移り変わりが体験できます。

塩の道協議会のあゆみ

1995年に掛川市の提案で、静岡長野新潟の48市町村による日本海から太平洋「塩の道会議連絡協議会」が結成され、南塩ルートと北塩ルートが一体となって交流が続けられている。